

飲酒代への支出

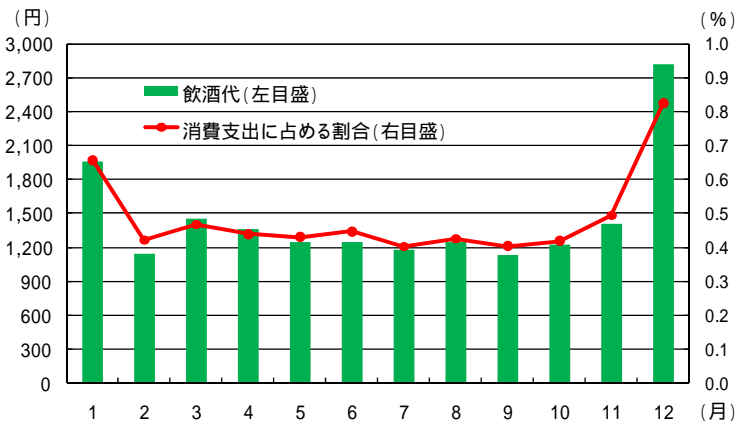
- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -

今年も年の瀬が近づいてまいりましたが、12月は忘年会などでお酒を飲む機会が多いかと思えます。そこで今回は、飲酒代への支出について家計調査結果からみてみましょう。

12月及び1月に支出金額が増加する飲酒代

1世帯当たりの飲酒代への支出金額を月別（平成19～21年平均）にみると、12月と1月の支出金額が多くなっています。また、消費支出に占める割合も12月と1月が高くなっています。これは、忘年会や新年会でお酒を飲む機会が多いことが影響していると考えられます。（図1）

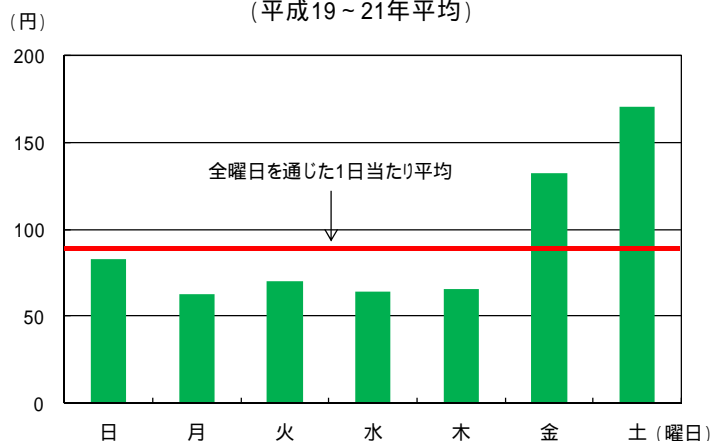
図1 飲酒代の月別支出金額（平成19～21年平均）



金曜日及び土曜日に多い12月の飲酒代

次に、1世帯当たりの12月の飲酒代への支出金額を曜日別（平成19～21年平均）にみると、金曜日と土曜日の支出金額が多くなっています。次の日が休日である金曜日と土曜日にお酒を飲む機会が多いことが分かります（図2）。

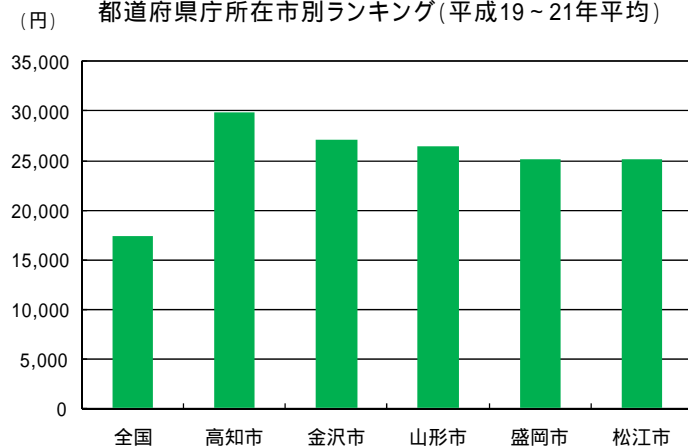
図2 12月の飲酒代の曜日別支出金額（平成19～21年平均）



年間支出金額の1位は高知市

最後に、1世帯当たりの飲酒代への年間支出金額（平成19～21年平均）を都道府県庁所在市^注別にみると、高知市が29,811円と最も多く、全国平均（17,406円）の約1.7倍になっています。次いで、金沢市（27,156円）、山形市（26,395円）、盛岡市（25,144円）となっています（図3）。

図3 飲酒代の1世帯当たり年間支出金額の都道府県庁所在市別ランキング（平成19～21年平均）



注)川崎市及び北九州市を含む